会員の皆様にお聞きしました

新南陽の景況感

監修・分析／マサエンジニアリング代表
中小企業診断士 佐伯 昌之 氏

調査概要

調査対象期間 2022年4月～6月（現状）における景況感と、2022年7月～9月（今後）における景況見通し

調査対象 新南陽地域の企業79社

調査方法 商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目 「業況」、「売上高」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

業況DIはほぼ横ばい、新型コロナの影響は改善傾向だが、コスト増により採算は低下、先行き見通しの業況DIは物価高の長期化に警戒しつつも改善に期待あり。

新南陽地域の2022年4月～6月期の業況DIの全産業合計値は▲65.0%となり、前期調査（1月～3月期）よりもマイナス幅がわずかに0.2ポイント縮小のほぼ横ばい。全国では「第168回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DIもマイナス幅は縮小している。

新南陽地域の今後3カ月の先行き見通しも、全産業合計値のマイナス幅は縮小する見通しとなっており景気回復に期待感がある。また従業員、設備は前期と同様にプラス（不足）値を示している。全国では「第168回中小企業景況調査」の全産業合計値は、マイナス幅が縮小する見通しとなっている。

全国的には、活動制限の緩和から3カ月が経過し、日常生活への回復が見られる一方、資源・資材価格の高騰継続や資材供給の乱れ、円安による輸入物価の上昇等により、業種を問わず、コスト増が続いていることに加え、それに見合うだけの価格転嫁は依然として行われていない。（商工会議所LOBO調査6月）

【卸・小売業】
業況DI、売上高DI、採算DI、資金繰りDIが前回の調査と同様で▲100%（全事業者が悪いと回答）。また、従業員DI、設備DIは前回と同じで100%（全事業者が不足と回答）されている。
今後3カ月の先行き見通しの業況DI、仕入単価DIは、マイナス幅が減少する見込み。
ウクライナ情勢、原油価格上昇による仕入れ価格の上昇等利益確保が厳しいと報告有。

【製造業】
売上高DI、採算DIが前回の調査に比べてマイナス幅が縮小。従業員DI、設備DIは前回と同じで100%（全事業者が不足と回答）されている。仕入単価DI、資金繰りDIは前回と同じで▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しは、業況DI、売上高DI、採算DI、仕入単価DI、資金繰りDIが▲100%（全事業者が悪いと回答）。
部品不足とその調達価格の上昇等利益確保が厳しいと報告有。

【サービス業】
業況DI、売上高DI、採算DI、設備DIが前回の調査に比べて改善している。また、仕入単価DI、資金繰りは前回同様で▲100%（全事業者が悪いと回答）。
今後3カ月の先行き見通しでは、業況DI、売上高DI、採算DIのマイナス幅がさらに縮小する見込み。
原油価格の高騰で物価上昇の影響は出ているとの報告有。

【飲食・宿泊業】
業況DI、売上高DI、設備DIが前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。採算DI、仕入単価DI、資金繰りDIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。
今後3カ月の先行き見通しの、業況DI、売上高DI、採算DIはマイナス幅が縮小、特に売上高DIは100%（全事業者が良いと回答）となる見込み。
仕入価格上昇により価格の見直しを行ったが客離れに対する不安や、GoToEatによる来店の期待との報告有。

【建設業】
業況DI、売上高DI、採算DI、資金繰りDIが前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。改善した項目は無い。仕入単価DIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。
今後3カ月の先行き見通しの、業況DI、採算DIはマイナス幅が縮小する見込み。
仕入価格上昇や、人材不足による売り上げの伸び悩みの影響で利益率が下がったとの報告有。

【運輸業】
業況DI、売上高DI、採算DI、資金繰りDIが前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。改善した項目は無い。また、業況DI、採算DI、仕入単価DI、資金繰りDIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。
今後3カ月の先行き見通しの、業況DI、売上高DI、採算DIはマイナス幅が縮小する見込み。
原油価格高騰による燃料等の上昇は続いている。働き方改革を実施していると報告有。

【保険業】
売上高DIは、▲100%（全事業者が悪いと回答）。業況DI、採算DI、従業員DI、設備DIの項目はマイナス幅が縮小している。特に業況DI、従業員DIは100%（全事業者が良いと回答）。
今後3カ月の先行き見通しの、業況DI、売上高DI、採算DI、従業員DIの項目は100%（全事業者が良いと回答）となる見込み。マイナス値を示す項目は無い。
新型コロナの影響は概ね改善傾向にあるとの報告有。

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI＝（増加・好転などの回答の割合）－（減少・悪化などの回答割合）

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業		保険業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-65.0	-35.7	-100.0	-71.4	-42.9	-100.0	-20.0	33.3	-50.0	0.0	-71.4	-60.0	-100.0	0.0	100.0	100.0
売上高	-59.2	-51.5	-100.0	-100.0	-9.1	-100.0	-60.0	0.0	-50.0	100.0	-60.0	-75.0	-66.7	0.0	-100.0	100.0
採算	-81.4	-62.2	-100.0	-100.0	-66.7	-100.0	-66.7	-33.3	-100.0	0.0	-63.6	-55.6	-100.0	-60.0	0.0	100.0
仕入単価	-96.2	-96.0	-86.7	-83.3	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0
従業員	90.9	83.3	100.0	100.0	100.0	60.0	100.0	100.0	50.0	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	87.5	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-90.0	-88.9	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-50.0	-60.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0

※前年比…2022年4月～6月と前年同月の比　見通し…今後3ヶ月（2022年7月～9月）の見通し

会員の声

【卸・小売業】
◇昨年秋からの原油価格高騰により、ガス仕入単価が急騰していたが、予想を上回る高騰が続いた為、客単価への売単価の転換タイミングのずれにより、資金繰りが悪化したが、現在は安定傾向にあり。
◇ロシア、ウクライナの戦争による原油の高騰、日本の金利差による円安ドル高による仕入れ価格の上昇にメドがたたない。現在は政府の劇的緩和措置による補助金により急激な値上がりは阻止しているが一応9月までなのでその後の政策によっては一層厳しい環境におかれる。
◇新型コロナは一見落ち着きつつあるように見えるものの、まだ各地でクラスター等出ており、先行き不透明な為依然として客単価が上がらない。又、ウクライナ情勢も長引く可能性で原油価格高騰によりあらゆるインフラ及び輸入品の値上げラッシュで仕入単価も上がりつつあり、小売業にとってきびしい状況が続き設備投資もままならない。各種支援必要です。

【製造業】
◇仕入価格の上昇と部品不足により先行き不安。
◇地方の人口減少に伴うと思われるお墓離れ。

【サービス業】
◇原油価格高騰の折、燃料費も嵩んできていますが、価格設定を見直す程のひっ迫した状況では現状ない。
◇新棟建築（昨年、一昨年実施）に伴うインフラ設備投資により資金繰り悪化。

【飲食・宿泊業】
◇まだまだコロナの影響あり。プレミアム付商品券やクラウドファンディング、go to イートに期待している。
◇事業復活支援金等各種のご支援に感謝しています。企業さんや協力会社さんのご利用がまだまだ無く、経費を使って頂くよう促せないものかと…。恩家します。
◇業況が悪い中、仕入れ単価が上がっています。この度、お金をかけて、メニューを作り、値段を1割程度上げました。値上げによりお客さんが少なくなるかも？不安です！

【建設業】
◇木材も約倍に値上がりして、設備機器も入荷が遅れています。お客様も資材も高騰している事を承知されておりリフォームをためらっておられる現状です。
◇2020年時点と現在を比べると、やはり受注自体は徐々に落ちついてきているが、設備等々の価格の上昇と納期の遅延対象が増えてきた。それにより工事の受注スピードも下がっているが、業況はほぼ変わらない。
◇仕入れ資材の高騰と人員不足による人件費の高騰によりダブルパンチを受けている。売上げに対する原価が大幅に上がり利益率が下がる見込みで苦しい。

【運輸業】
◇現在、働き方改革に取り組んでいる。親事業者にはより一層の協力をお願いしたい。
◇原油価格の高騰は継続的であり、売上高が若干伸びが予測される中（新規事業のプラス等）利益は伸び悩むことは確実である。小売では、今回初めて「元気にやまぐち券」に応募、今後積極的に活用していきたい。
◇運輸業においては燃料費の値上がりが死活問題です。昨年比110～120%で推移。さらに円安が追い打ちをかけ先行きが見えない状態です。反面、競争原理の中、頂ける運賃を上げることは想定以上に難しく、売上はキープできても利益は圧迫される傾向です。

【保険業】
◇新型コロナの影響で業種ごとの影響はあるものの、概ね好転している。ただ、ウクライナ情勢や価格高騰がマイナスの影響を及ぼす可能性が高く見通しは明るくない。
◇日常がもどりつつある様に感じているが、元にもどるとは思えず新たなライフスタイルができてくるように考える。社会の流れに合わせた体制や方法を模索していく必要を痛感している。